

令和6年度 岩城中学校 学校関係者評価集計表

結果 : 4=あてはまる 3=おおむねあてはまる 2=どちらかといえばあてはまらない 1=あてはまらない
 評定 : A=対象の80%以上が肯定 B=対象の70%以上が肯定 C=対象の60%以上が肯定 D=対象の60%未満が肯定

教職員12人 生徒36人
 保護者36人 地域9人

項目	細目	評価指標	評価資料	アンケート結果					評定	(自己)評価の○分析・考察・◎改善策	今後の改善の方策 (学校関係者評価委員会から)	%		
				4	3	2	1	無						
教育課程・学習指導	A 教育目標	1 「確かな学力の定着と強くやさしい心の育成」の達成に向けて、具体的に努力している。	教職員	8	83	8	0	0	A			93%		
		生徒	17	58	8	3	14							
	C 学力・学習習慣	1	基礎・基本の充実を図り、確かな学力の定着・向上に向けて積極的に取り組んでいる。	教職員	8	83	8	0	0	A			91%	
				生徒	31	64	6	0						
		2	学習習慣・学習態度(家庭学習も含む)の育成に努めている。	保護者	6	61	11	8	14	B	○テスト期間以外にも、放課後や昼休みを利用して個別の学習相談や補充学習を実施した。また、朝のドリルの時間を利用して、基礎学力の定着に向けて小テストを実施している。 ○生徒数も少なく、メンバーにも変化がないため、自分の立場や順位が固定されている。 ○学年部の層が薄く、学習に望む基本的な指導が十分ではないように思う。 ◎タブレットを使用した簡単な課題を出す。 ◎宿題や課題の提示方法を工夫する。 ◎1回10分程度でできるようなドリル等の課題を出し、習慣化する。 ◎家庭と連携して、家庭での学習時間を増やす工夫をする。宿題の範囲から小テストを作り、翌日実施する。			71%
				地域住民	44	56	0	0	0					
				生徒	25	42	25	8						
				保護者	19	36	33	11	8					
		3	生徒は、発表の仕方や表現力が身に付いている。	教職員	8	83	8	0	0	B	◎発表の仕方も大事だが、生徒の「つぶやき」も取り上げてみんなが授業に参加している意識を持たせたい。まずは授業が楽しいと思えることではないか。 ◎A S ミーティングや、問答ゲームなどを通して発表方法を習得させる。 ◎発表の仕方については早口と滑舌の悪さが気になる。生活の中で全教職員が意識して指導しなければならない。 ◎声が小さい。全教職員で意識して指導する。			77%
				生徒	31	50	19	0						
		E 心の教育	1	指導法や指導体制の工夫・改善に努め、分かる授業づくりに取り組んでいる。	教職員	17	75	0	0	8	A			94%
					生徒	67	31	3	0					
2	学習の充実のために、自然・文化・人など、地域の特色を生かしている。		保護者	14	64	17	6	0	A	○ふれあい学習会、歴史学習、職場体験、かんきつ作業体験、芋の苗植えや収穫、青いレモンの宣伝、社会福祉協議会と連携した高齢者体験、ひまわり100年館訪問、地域の方と語り合うワークショップ等、地域交流活動の機会が充実していた。			85%	
			地域住民	67	33	0	0	0						
			教職員	17	42	33	0	8						
			生徒	69	28	3	0							
3	教材や教具・教育機器(ICT)等を効果的に活用している。		保護者	19	61	8	0	11	A	○授業に積極的に活用する教員が増えてきている。急激にICT化が進み、環境が変わったことは大きい。 ◎ICTの活用方法について、講師の方を招くなどして研修の機会を増やす。			94%	
			地域住民	56	33	11	0	0						
1	望ましい人間関係づくりに努めている。		教職員	17	83	0	0	0	A				93%	
			生徒	67	33	0	0							
			保護者	17	58	14	6	6						
			地域住民	67	33	0	0	0						
2	生徒が命の大切さを実感できる教育の充実に努めている。	教職員	75	25	0	0		A				100%		
		生徒	75	25	0	0								
3	人権・同和教育年間指導計画を立案し、実践している。	教職員	8	67	17	0	8	A	◎3年間を見通した人権・同和教育を実施していくことが、生徒の人権感覚や道徳的実践力の向上につながる。3年次の長島愛生園訪問以外にも、2年次、1年次に差別の現実学ぶ機会があると思う。			92%		
		生徒	19	67	3	3	8							
4	生徒はJRC活動や積善運動に積極的に取り組んでいる。	保護者	67	33	0	0	0	A	◎活動がマンネリ化している感はない。生徒が意欲的にできるような工夫と改善に努める必要がある。			90%		
		地域住民	67	33	0	0	0							
生徒指導	1	生徒は部活動に意欲的に取り組んでいる。	教職員	8	67	0	0	25	A	◎休養を適切に設けてメリハリをつける。			90%	
			生徒	53	44	3	0							
	1	生徒一人一人にアンケートや教育相談などを実施し、全校職員が協力して、いじめ・不登校等の早期発見・早期対応に努めている。	保護者	17	53	25	0	6	A	○ふれあいアンケートにより、毎回生徒が悩みや不安を打ち明ける機会が確保されている。 ◎学級担任だけでなく生徒が希望する教員での教育相談の実施。			90%	
			地域住民	56	33	0	0	11						
			教職員	44	36	17	3							
			生徒	44	36	17	3							
	2	基本的な生活習慣の育成に努めている。	保護者	8	72	14	6	0	B	◎早寝・早起き・朝ご飯の調査をして意識付けをする。 ◎忘れ物と整理整頓など全校で改善意識を統一して取り組む。			72%	
			地域住民	56	33	0	0	11						
	3	進んで気持ちのよいあいさつができています。	教職員	47	31	19	3		A	◎継続して生徒、教職員ともに積極的な挨拶を心掛ける。			91%	
			生徒	47	31	19	3							
	4	将来の夢や希望について、話したり、考えたりする活動をしている。	保護者	33	33	31	3	0	B	○自分が中学生の頃も将来のことまで考えてはいなかった。あまり必要性を感じないが、広く多くの情報を得ることは必要だと思う。 ◎3年間を見通したキャリア教育の実施。上島町でどんな仕事ができるか、実際に見学したり、地域の方の話を聞いたりする機会を増やす。 ◎5月に進路説明会を実施する。(3年と保護者)、2年生も入れてはどうか。 ◎総合、道徳、学活でのキャリア教育の充実			70%	
			地域住民	56	44	0	0	0						
教職員			8	75	17	0	0							
生徒			36	31	22	11								
H 学校保健安全	1	非常時に適切に対応できるような訓練や指導の充実に努めている。	教職員	8	83	8	0	0	A	◎給食の非常食試食や避難訓練など、南海トラフ巨大地震を見据え、今後も防災教育を充実させていく。 ◎様々な状況での避難訓練を月1回実施。			94%	
			生徒	61	33	6	0							
I 特別支援教育	1	コーディネーターを中心に、特別支援体制を整え、協力して支援している。	保護者	22	67	11	0	0	A	◎今後も様々な機会を捉えて啓発していく。 ◎教職員の研修機会の充実。			83%	
			地域住民	56	44	0	0	0						
J 保護者・地域との連携	1	保護者や地域の人々とのふれあいを通して、信頼関係を確立している。	教職員	0	83	8	0	8	A	○「ふれあい学習会」は、生徒、保護者、地域の方、教職員が1つのテーマについて考え、意見交換することで、相互の人間関係・信頼関係の確立につながっている。			94%	
			生徒	11	44	11	8	25						
	2	「学校だより」や「学級だより」等の内容は適切である。	保護者	17	67	8	3	6	A			92%		
			地域住民	17	67	8	3	6						
3	校舎内外の美化に努めている。	教職員	8	72	14	3	3	A	◎PTA環境整備では、多くの保護者が毎年参加し学校の美化に協力してくださっている。今後もこのような活動を継続していく必要がある。 ◎業者と町と相談して樹木の剪定をしていく。			99%		
		生徒	8	72	14	3	3							
K 施設・設備	3	校舎内外の美化に努めている。	保護者	56	44	0	0	0	A			99%		
			地域住民	56	44	0	0	0						